News of The Japanese Weekend School of New York

BIG APPLE

ニューヨーク補習授業校
56 Harrison St. Suite204
New Rochelle, NY 10801
Tel:(914)636-3770
Fax:(914)636-7476
平成26年　6月13日　No.6
発行責任者：校長　櫻井郁男

私たちも　学びあっています。

5月に入り、幼児部・中高等部の研修会が始まりました。

幼児部は両校合同研修を実施し、各教員がとっておきの指導事例を披露しあいました。

「紙ぽっくり」、軍手指人形「のねずみ」、「コート」、折り方ストーリー「兜の折り方」、「お歌指導上の工夫」、そして「小道具」など盛りだくさんでした。すぐに各校での活動に生かされることでしょう。



右上の写真は、W校初等部の授業後に行われた研究協議の様子です。普段、LI校を担当している荒井教頭(専門は小学校教育)が講師となり、指導技術や教材の活用について意見交換を行いました。

右の写真は中高等部の理数系研修会です。高等部ともなりますと、教科にかかわらず、生徒の日本語能力はもちろん、現地校での既習知識を考慮した指導が必要です。教師がお互いに授業を見せ合い、指導法の工夫改善を図っています。

「今日、たくさんの先生が授業を見に来ていたよ」とお子さんからお聞きになったら、「先生も勉強しているんだよ」とおっしゃってください。



運動会・・・成功へ・・確信

赤・白応援の練習風景です。



各団長さんは、何年間LI校運動会に参加し、お兄さん・お姉さんの姿にあこがれつつ最上級生となったのでしょう。13回目？ 11回目？
それとも、よちよち歩きのころからでしょうか。

練習風景を見守る教職員の目には　光るものがありました。

LI校ならではの「全校」運動会、成功を確信しています。





お寄せくださったご意見について(ご理解のお願い)

各種コンクール応募について

例年、学校が取りまとめをして応募している「海外子女教育振興財団 海外子女文芸作品コンクール」について、問い合わせとお叱りを受けました。苦言の内容は、今年度の応募を、俳句と短歌部門に限定したことです。

このコンクールは、本校の教育目的に照らし有意義であると十分に理解しておりますが、応募に際しての事務作業が多種・煩雑であり、派遣教員の減による業務の精選の一環として、不参加との方針を出しました。

昨年11月に財団の理事長と協議する機会があり、その旨をお伝えしたところ、今年度は取りまとめ方法が幾分改善されましたので、不参加の方針を改め一部応募することとしました。

ご指摘の2点目は、「応募部門が、**俳句・短歌**であり、**詩・作文**ではないのか」ということでした。

このことについては、本校児童・生徒の応募数が多い部門に絞りましたと、ご説明いたしましたところ、さらにご意見をいただきました。

ご指摘くださったことは、教育的にはすべておっしゃる通りでありました。校長として「常勤教育スタッフ(主幹・教頭)の負担増は、管理者として放置できません」と申し上げ、ただただご理解を求めるばかりでありました。

印刷物減による、「意思疎通減」についてのご心配

5月に行われた授業参観・懇談会ののちにいただいた、学校へのアンケートに、「紙の節約によって、意思疎通を損ねるのではないか」と危惧なさるご意見でした。

昨年度68,000枚(5%)の削減をいたしましたが、すべての皆様に確実にお知らせすべきと判断する文書については、印刷してお届けしております。印刷機の標準許容印刷枚数に対して、倍以上の印刷をしており、故障した場合にはメンテナンス料金も割増しになっております。

皆様から頂いた学費で成り立っている補習校です。どうぞ実情をご理解ください。